

広 報

こだま

2013

Vol.14

【栗田病院 広報誌】

理事長就任の挨拶

理事長・院長 栗田 裕文

フォーカス くりた人

外来リハビリテーション 作業療法士 坂元 勇斗

広報散歩

グループカウンセリングって何？

入社式



有朋会・理念 ～私達の求める姿～

私たちの使命は、患者様、利用者様、ご家族様、地域連携機関、地域住民、有朋会職員と
いったあらゆる方々の「こころ」に、温かな（ホットな）灯りをともすこと、笑顔を増やし続ける
ことです。その使命を果たすことで、以下3つの姿を実現します。

1. 医療・介護・福祉を統合した高品質のサービスを設計・開発し提供し続けている。
2. スタッフみなが有朋会の一員であることに胸を張れており、患者様、利用者様、ご家族様に
質の高いサービスを提供している。
3. 働きたい・学びたいと希望する方が絶えることなく集まってくる。



医療法人社団 有朋会

栗田病院

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505

TEL: 029-298-0175 Mail: yuhokai@yuhokai-kuritah.com

<http://www.yuhokai-kuritah.com/>



理事長就任の挨拶



理事長・院長 栗田 裕文

平成25年4月1日より、医療法人社団有朋会の理事長に就任いたしました。この場を借りて御挨拶を申し上げます。若干、力が入り過ぎていきらもあるかと存じますが、どうかご容赦くださいませ。

有朋会は昭和42年に私の父、栗田秀秋が設立いたしました。昭和59年に秀秋が急逝した後は、母、栗田邦子が、多くの先生方やスタッフ、連携機関の皆様のご助力のもと、約30年間、理事長として辣腕を振るい、果敢に古い精神科病院の因習を打ち破り、はばかりながら地域の精神科医療の発展に尽力して参りました。

沢山の方に支えられながら先代達が積み上げてきた歴史の重みを、しっかりと受け止めて、顧客の皆様（患者様やご家族、連携機関、地域住民、スタッフ等々）への大きな責任を改めて自覚すると共に、有朋会が責任をもつ全ての方々に対して、ここをホットにする、温かにする、ホッとしたい、それらを使命として理事長・院長として邁進して参ります。

当然のことではありますが、顧客へのサービスは現場で行われています。有朋会のこれまでの、現在の、そしてこれからの発展は、現場での一人一人の、一つ一つのサービスの積み重ねの結果に因ると考えています。しっかりとお一人お一人の顧客へ向き合うこと、一つ一つのサービスを質の高いものにするこの大切さを、しっかりとここに留めながら、有朋会のよい点をより活かし、改めるべき点を改めて、スタッフと共により質の高いサービスを目指します。

例えば、医療の質として医療安全を大切にします。インシデントやアクシデント、不適合から得られる教訓は何か、適切な是正処置は何か、しっかりと考え抜いて、教訓を次に活かしてよりよいサービスを実践できるよう、創意工夫をして参ります。



インシデント等に限らず、真実に耳を傾ける風土を築いて行きます。

また、今回理念が新しく生まれ変わりました。旧理念は、平成15年の院長就任時に制定をしたもので、当時のマネージャー（部長）らと今後の病院の方向を時間をかけて何度も話し合い、それを踏まえて作成したものでした。

今回、現在のマネージャーらと相談して理念をバージョンアップいたしました。旧理念の精神を受け継ぎながら、現状、今後の有朋会や有朋会スタッフの方向性・方針がより明確に、具体的に変わったものと思っております。この理念を柱として、有朋会は進んで参ります。

繰り返しとなりますが、平成15年に院長に就任して早10年。年月の過ぎる早さを実感しております。これからの10年を、理念が具現化した、顧客の皆様、沢山の笑顔が溢れる、心躍る楽しい年月とすることを誓い、理事長就任の挨拶といたします。

今後とも医療法人社団有朋会をよろしく申し上げます。



フォーカス

くりた人

外来リハビリテーション
作業療法士 坂元 勇斗

当院で勤務している現場職員の
声をお伝えします

当法人では どのような活動をしていますか

私は外来リハビリテーション（以下、外リハ）を通して、地域で生活している方を支援しています。本人たちが利用する目的といえば、治療だったり就労だったり人それぞれ違っていますが、目標や悩みを抱えている利用者様に集団や個別での関わりの中でアドバイスなどを行っています。

主なプログラムですと、私は太陽グループに所属しています。太陽グループとは比較的若年層（10、30代）の方が外出や院内活動を通して同年代の交流や責任感を養うことを目的としています。利用者様主体で外出の計画を立て、それぞれ役割を設定しているため、私の役割としては何か問題があった時にすぐ対応できるようにする事、悩みや外出の計画が実現可能かの判断を行うことです。

また、外リハの他にも月に1度行っている統合失調症の家族教室や、週に1度グループカウンセリングにも携わっています。

家族教室は1クール全2回に分けられていて第1回はDrの講義とフリートーク、第2回は担当スタッフの方から本人への関わり方とフリートークを行います。フリートークでは家族の想いや悩みが直接伺える為とても有意義な会に毎回なっていると思います。

患者様の対応をする上で 心がけていること

外リハを利用している方のごほとんどが何か悩みを持っていたり、生活面で上手くいかない事が多かったり、自分に対してネガティブな方向へと考えがちになってしまいます。もちろん指導の一環として注意することもあります。私はネガティブ面を指導するよりも本人のポジティブな面を拾い上げて本人と接するよう心がけています。

気持ちがネガティブですといくら指導しても本人が前に進まないと考えています。まずやる気を出させる事を念頭に置き、利用者のポジティブな部分を伸ばし、自分の強みを持つてほしいと思っています。

また相談や指導でも、1から10まで私が処理するのではなく、本人が出来ることは本人にやってもらうようにしています。生活の場では物事を本人の意思で決定しなければならぬ為、外リハを利用していても本人に選択してもらいような環境を作っています。

時には私にも分からないような質問があります。その時は見栄を張らず一緒に悩む事になっています。利用者様の目線に立ち、信頼関係を築けるよう、スタッフと利用者の関係と割り切らない事も心がけています。

印象に残っているエピソード

私が入社2年目の時に関わった事例ですが、地域生活における不安が大きいながらも、外リハに定期的に通われていた方がいました。

その方は外リハ通所開始当初、対人緊張が強く、他者との交流が苦手、声をかけただけで表情はこわばり、全身を震わしながら話していたのを覚えています。最初はやはり自発的な交流はなかったのですが、もともとやっていたという卓球を通して、私や他の利用者様とのコミュニケーションを図ったところ、自分から誘うわけではありませんが、徐々に色々な利用者様と卓球をする場面が見られるようになりました。その後、卓球以外にも運動プログラムに参加するよ

うになったり、表情が自然になったりと、会話の際も全身を震わせることはなくなりました。また、本を買って独学で卓球を勉強し、打ち方などを自分から教えてくれるようになったりして、外リハを楽しんでいる様子が窺えました。しばらくして、地域の卓球教室に通うという、苦手としていた集団の場への参加を自ら希望したと聞いた時は、驚いたと同時に嬉しく思いました。

調子の波もあって、本人の目標はまだまだ達成されてはいませんが、「好きなこと（卓球）」を見つけてやるのが、一番のリハビリですね。」という、その方の言葉は印象的でした。

外リハは一日の通所者が多く、プログラム運営に目が行きがちですが、集団の中でも個別介入の必要性・重要性を感じさせられた一例です。

将来の目標をお聞かせください

外リハには生活リズムを整える目的で通所している方などがいらつやいますが、特に単身で生活している高齢の利用者様など、日中過ごす場として利用されている方もいます。しかし、通所目的が、日中過ごす場、でなくとも、外リハを長年利用するに至っている現状もあります。決して、外リハを長年利用することをネガティブな要素として捉えてはいませんが、就労を目標にしている方や若い利用者様にとって、外リハは通過点であってほしいと願います。就労準備プログラムを開始してから、就労に目が向く方、作業所などに移行する方が増えたような印象も受けますが、就労の土台となる治療が十分にできているのか疑問に思っています。今よりもさらに充実したプログラム運営をし、治療を目的とした利用者様のニーズにも応えられるような外リハでありたいと思います。

もちろん私自身も、スタッフの一員として、また、作業療法士として、外リハに貢献できるスキルや、法人内外で動ける行動力を身につけたいと考えます。プログラムや個別介入を通して、周囲から非現実的、無謀と判断されがちな目標であろうとも、出来る限りのことは一緒にチャレンジしたいです。結果、利用者様に通所して良かった。と言って頂けたら最高です。

広報散歩

グループカウンセリングって何？

今回は、グループカウンセリングについてインタビューを行っています。今回取材に応じてくれたのは、グループカウンセリング担当の進藤純平さんです。



グループカウンセリングとはどのようなものですか？

「グループカウンセリング」といっても、何かそういった特別な治療法があるわけではありません。10名前後のグループで行うフリートーク形式のミーティングの様なものです。一般的には集団精神療法と呼んだりもします。

当院では、心理教育グループや入院して間もない方のグループなど様々な治療グループがあります。グループカウンセリングもこれらの治療グループの中の1つになります。

カウンセリングと聞くと、自分の悩みや気になっている事を話すものという漠然としたイメージがあると思いますが、グループカウンセリングは、それをみんなで話し合って意見を出し合うという特徴があります。

グループにはもともと様々な治療的な力が備わっていると言われています。たとえば、「こんな事で悩んでいるのは自分だけじゃないのか。」とすごく孤独に感じていた方が、グループで同じような体験や悩みを抱えている方々とのコミュニケーションから

勇気がもらえる事があります。「もう良くならないんじゃないのか。」「ダメなんじゃないか。」と不安や絶望を感じていた方が、グループの仲間が実際に良くなって、卒業していく様子を間近で見る事で励まされる事があります。こういった経験はグループならではのものです。『集団力動』あるいは『グループの治療因子』と呼ぶこともあります。これらを治療に活用しているのがグループカウンセリングと言えます。

グループカウンセリングではどのような事をやっているんですか？

先ほどお話しした通り、グループカウンセリングでは特定の話題やテーマ等は決めていません。その時に感じている事や思っている事、話したい事、話す必要があると思っている事を自由に話す形式をとっています。それを毎週1回、1時間程度の時間枠で行っています。スタッフが「それでは始めます。」と言ってから、「それは時間になりましたので今日はここまでにします。」と言うまで、その時間は何を話しても自由になっています。

グループカウンセリングではどんな事を大切にしているんですか？

まとまらなくて、お伝えするのが難しいんですが、グループ体験とでも言うような、グループの中でメンバーの方が体験する『その場』での感情や心の動きを大切にしています。

私たち治療者は、どうしても悩みを解決したり、問題を取り去ったりといった、医療モデルで考える癖がついていると思うんですね。それは大切な事でもあるんですけど、グループが持っている本当の良さというのはちょっと違うところにあるのかなと思っています。

私たちは、これまでも様々なグループに所属してきました。家族もそうですし、学校の部活、サークル、会社、地域のコミュニティなどもグループに入ります。たとえ

入社式

平成25年4月1日、当法人で新入職員入社式典を行いました。

今年度は医師1名、准看護師1名、作業療法士2名、精神保健福祉士2名、管理栄養士1名、心理士2名、事務2名の11名が入社しました。



新人作業療法士からみた栗田病院の魅力と今後の意気込み

私が考える栗田病院の魅力とは、各病棟・各職種間の連携の強さです。私がいかに実感したのは、病棟を越えた作業療法の実施という形態を知ったときです。病棟と言う枠にとらわれず、同じ病期や同じ目的などによって作業療法を実施することで患者様一人ひとりにより適した作業療法を提供することが可能となります。またこれにより、担当の病棟以外の患者様の様子を知ることができ、患者様が病棟を移動した際などに速やかにより良い対応ができると思います。これらは病棟間の連携が強いからこそ可能となる形態であり、大きな魅力であると思います。

また作業療法を病棟で実施する形態からは、患者様の生活をより深く知ることができ、さらには他職

種の病棟スタッフとの連携もしやすい環境であることが考えられます。これにより患者様の生活全体に即した作業療法の実施が可能となり、より良い治療の提供につながると思います。作業療法を提供するうえで重要な、患者様の生活を知ることがしやすい環境にあることはとても魅力的であり、職種間の連携の強さが窺えます。



作業療法士 和田千紘

新人精神保健福祉士が感じる栗田病院の魅力と今後の意気込みについて

私は、栗田病院において精神保健福祉援助実習を行わせていただきました。その時、病院・施設ともに開放的で温かい雰囲気を感じました。栗田病院は茨城県の県央、県北の中核的な精神保健医療サービスを担っており、精神疾患を抱える方や益々増加している認知症患者への対応を含め、地域住民の様々な精神保健福祉課題を支えていける場であることが魅力であると考えました。

また実習中に、精神保健福祉士が行う退院支援の外出に同行させていただきました。その時に、精神保健福祉士は退院支援だけでなく、遠方に退院する患者様が希望する市街での食事や買い物をしたいた

ば、部活動であれば、もちろん大会で優勝したり、目標を達成したりする事も良い経験かと思いますが、それに向かつて練習したり、悩んだり、仲間とぶつかったりしながら過ごした日々の方が、改めて振り返ると良い思い出だったり、自分を成長させてくれたなあと感じたりする事が少なくないと思うんですね。これがグループ経験の大切なものを端的に表してくれているんじゃないかなあと。つまり、グループで何かに向かって活動したり、一緒に悩んだり、考えたりする経験自体が1人ひとりを成長させてくれるきっかけになるのだと思います。

ちょっと前置きが長くなりましたが、グループカウンセリングで大切にしている事は何かと言われると、結論を出したり、何かを決めたり、意見をまとめたりする事ではなく、自分の感情に正直にコミュニケーションが取れる事、お互いに率直なやり取りができる事なのかなと思います。もちろん、そういった経験が持てる様に、皆が安心して話せるようなグループの環境を作るのも治療者の役割だと思っています。

グループカウンセリングを利用したい場合はどのようにすればいいですか？

グループカウンセリングを利用したい場合は、現在の状態や他の治療との兼ね合いもありますので、主治医の許可が必要になります。まずは診察時に主治医の先生にご相談ください。その後、担当のスタッフより詳しい説明や、どんな事を期待しているのか、参加にあたって不安に思っている事はないか等のご相談をさせていただきます。

最後にひとことお願いいたします。

グループを苦手に感じる人は多いです。でも、実はさまざまな悩みや不安は人と人との間やグループの中で起きていたりもします。向き不向きもありま

すし、時には「しんどいなあ。」と感じる事もあるかもしれません。ただ、グループの中のそういった経験や体験は自分を成長させるエネルギーになる、そう信じて今後も運営を続けていきたいと思っています。



精神保健福祉士 磯前里香



診療案内

外来担当医一覧表

受付時間 午前 8:00 ～ 11:30 / 午後 11:31 ～ 15:00
診察時間 午前 9:00 開始 / 午後 13:30 開始

	診察室	月	火	水	木	金	土
午 前	1 診	安部	片野	安部	栗田	鈴木	水挽
	2 診	堤	高橋	堤	田口	堀	第3,5週 吉川 第2週 鈴木 第4週 安部
	3 診				木滝	太刀川	高橋
	5 診						田口
午 後	1 診	栗田					休診
	2 診		袖山	木滝		第2,4週 安谷屋	
	3 診		佐藤	竹下		渡辺	
	相談室					上月	

初めての外来受診・入院を希望される方へ

1. 電話で患者様の情報や現在の状況をご相談下さい。
2. 次にケースワーカー（相談員）が詳しい話を伺い、その後ご予約をお取りします。

※現在他病院を受診している、もしくは受診していた場合は紹介状が必要になります。

※当日の状況により、予約内容が変更になる場合がありますので予めご了承ください。

*精神科外来は完全予約制になります。

*当日のご予約は行っておりません。前日までにご予約をお願い致します。

予約電話対応時間 月～土（祝日を除く）9:00～17:00 TEL.029-298-0175

■=内科

関連施設

認知症専用デイサービス

「クリクリ瓜連」

〒319-2103 茨城県那珂市中里1365-7
TEL.029-270-9550 FAX.029-270-9558

「クリクリ豊喰」

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰28-9
TEL.029-353-2056 FAX.029-353-2057

「クリクリ住吉」

〒310-0844 茨城県水戸市住吉町20-6
TEL.029-248-1001 FAX.029-248-0215

「クリクリ市毛」

〒312-0033 茨城県ひたちなか市市毛上坪1186-2
TEL.029-275-0262 FAX.029-275-0263

「クリクリ青柳」

〒310-0004 茨城県水戸市青柳町3923-5
TEL.029-231-7066 FAX.029-231-7067

グループホーム・ケアホーム

「くりの木荘」

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰1152-1
TEL.029-295-7652

ケアホーム

「くりくり」

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰1152-1
TEL.029-295-7680 FAX.029-295-7681

「くりあん」

〒310-0004 茨城県水戸市青柳町3429-2
TEL.029-231-2280 FAX.029-231-2281

自立訓練(生活訓練)事業所

「くりの実」

〒311-0117 茨城県那珂市豊喰505
TEL&FAX 029-295-1834

アクセスマップ

